

県立水戸農業高等学校自己評価表

目指す学校像		知・徳・体を身に付けた社会に有為な人材を育成する学校。生徒一人一人の進路希望の実現を支援する学校。魅力ある農業教育を実践し、将来の農業経営者・関連産業技術者を育成する学校。体験学習・国際交流等を通してコミュニケーション能力を磨くことができる学校。地域社会の関係機関・団体・住民等と連携するとともにそれらに開かれた学校。			
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況
[昨年度の成果] ・授業、立哨指導あるいは保護者との連携等を通した反復指導で基本的生活習慣を身に付けた生徒が増えた。 ・体験活動等を通し、他を思いやる生徒が増えた。 ・教師が、授業を大切にしよう心がけた。生徒の授業に取り組む姿勢が良くなっている。 ・各科、学年、進路指導部等が一体となって指導をしたことにより、進路指導の成果が上がった。 ・救急救命講習を実施し、安全教育の充実を図ることができた。 ・農産物直売会の実施、茨城をたべよう収穫祭への出店、茨城ものづくりフェアへの参加により、就農意識を高めることができた。 ・農業クラブ全国大会（沖縄）への参加を通し、農業教育の充実に繋がった。 [本年度の課題] ・創立120周年記念事業に向けた取組の推進 ・道德教育をあらゆる教育活動を通して行い、規範意識を高め、規則を守れるようにする。 ・個に応じた分かりやすい授業に心がけ、授業に意欲的に取り組む態度を育成する。 ・進路指導部及び各学年との連絡を密にして、キャリア教育の視点に立ち、1年次から体系的な進路指導体制の確立を図る。 ・インターンシップ等、職業体験活動の参加者数を増やし、望ましい勤労観・職業観の育成に努める。 ・部活動紹介や見学会等を実施し部活動の更なる活性化を図る ・農業クラブ活動をより活発にし、農業教育を充実させ、魅力ある学校づくりを進める。 ・資格取得を奨励し、学習意欲の向上を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアへの取組の充実 ・学習効果の上がる教育環境の整備		・創立120周年記念式典の充実	・創立120周年記念事業に向け、本校の取組内容の情報発信に努める。 ・創立120周年記念事業に向け、保護者・地域・同窓会との緊密な連携を図る。 ・記念事業に向けた取組に触れることで、水農生としての自覚を促す。		A
		・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行や身だしなみを整えるなど、基本的生活習慣を確立させる。 ・無断の欠席・遅刻・早退を防止し、時間を大切にするなど、規律ある生活習慣を身に付けさせる。 ・道德教育や農業教育等を通して、豊かな人間性や素直な心を育む。 ・ボランティア活動等への積極的な参加を通して、思いやりの心を育む。		B
		・基礎学力の向上	・授業時間を大切にし、授業研究を怠らず、授業の質的向上を図る。 ・学力差のある生徒に対する学習指導の在り方についての研究授業や公開授業に積極的に取り組む。 ・自ら学習に臨む姿勢を育成し、生徒個々の能力の伸長を図る。		A
		・系統的な進路指導と指導体制の確立	・生徒の進路希望を実現のための適切な支援を行い、100%の進路実現を目指す。		A
		・特別活動の活性化	・運動部・文化部等の加入率60%を目指し、魅力ある部活動を展開する。 ・成達会等の自主的活動を推進する。		A
		・健康と安全教育の充実	・健康管理・交通安全・機械や農薬事故等の防止など、安全教育の充実を図るとともに危機管理・防災・不審者対応などのマニュアルの点検行う。 ・自然災害等に対する具体的な行動計画を作成し、実効性ある訓練を行う。		B
		・農業教育の充実	・特色ある学校づくり支援事業の取組を推進することで、農業後継者の育成を図る。 ・全国農業高等学校第2次アクションプラン「エコロジカル・アグリハイスクール宣言」に基づいた実践を行い、その検証と評価を通し、質の保障を図る。 ①播種から収穫まで基本的な農業技術能力を持つ人材の育成 ②食の安全・安心教育の推進 ③インターンシップ・先進農家実習・奉仕体験活動の積極的な推進 等 ・プロジェクト学習や各種発表会・競技会等に積極的に取り組ませることにより、農業クラブ活動の充実を図る。 ・いばらきものづくり教育フェアの準備・運営を通して、農業教育の活性化を図るとともに、実践の成果を地域に発信する。 ・資格取得に向けた積極的な取組を行うとともに、その合格率の向上を図る。		A
		・学校施設設備の充実	・学習効果の向上に繋がるよう、学校施設の教育環境の更なる整備・充実を図る。		A
評価項目	具体的目標	具体的方策		評価	次年度（学期）への主な課題
教 務 部	教育活動が円滑・効率的に機能するような取組の研究	授業環境の整備を図る。		A	・環境整備が一段落し、授業そのものの充実を図る時期を迎える。 ①授業に向かう姿勢づくりに目を向ける。 ②生徒の長所に着目した授業構成や声かけを工夫する。 ③人事の流動性がはげしく、資格取得の計画立案がお座りになってしまっている点を再検討する。 ④教務部内に情報関係を集約するに当たって、枠組みや人員配置を工夫する必要がある。
		新教育課程に基づいた教育活動の定着を図る。		A	
		職員室の環境整備にあたる。		A	
	基礎学力の向上	学習評価と生徒指導との住み分けを行い、授業内容の充実を図る。		B	
		生徒の潜在力を引き出す授業方法の研究をする。		B	
		基礎学力の向上を目指し、進路指導部や学年団との連携を図る。		A	
	広報活動の充実	資格取得に向けての取組を強化する（全体計画・指導計画の検討）。		B	
		ネットワーク委員会と連携し、ホームページを充実させる。		A	
		奨学金制度の広報活動を充実させる。		A	
		中学生や受検生に向けて、水農体験・学校公開やホームページの充実させていく。		A	
		中学生向けのPR活動の充実を図る。		A	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣の確立	朝の立哨指導を継続実施し、制服を整えさせる。 授業開始時間の着席を厳守させ、授業に取り組む態度を育成する。 挨拶の励行や身だしなみ・言葉遣い等、学校生活における基本的生活習慣を確立させる。 ルールや決まりを守り秩序ある生活ができるよう、特別指導を取り入れ、生徒の生活改善を図る。 授業の遅刻を防止し、時間の大切さを身に付けさせる。	A B B B	B	・教員間で共通の認識を持って、指導の統一化を図る。 ・基本的生活習慣の向上を図り、社会のマナーやモラルの向上を育てる。 ・学校行事や体験活動等を通して他を思いやる心を育てる。
	安全な学校生活環境の維持	貴重品の自己管理を徹底させ、盗難や紛失防止に努める。 自転車・バイク通学者に対する安全指導の継続と交通ルールを守った運転を励行させる。 立哨指導等を通して、登下校の安全を確保する。 薬物乱用防止教室やケータイ安全教室等の各種講話を通して、法律や規則を守り被害に遭わない生活ができるようにする。	B B A A		
	心の教育の推進	農業教育や道徳教育を通してモラルの向上と命の大切さに気付かせる。 教育相談やカウンセラー、担任との面談等を通して学校生活への適応と自己実現を促す。 ボランティア活動・交流活動・体験活動等への参加を促し、自らの立場を理解して他を思いやる心を育成する。	B A B		
	いじめ防止対策	未然防止として、授業やホームルーム活動を通し生徒の規範意識を高めさせる。 早期発見として、アンケート調査を実施し実態把握に努める。また、生徒や保護者と相談できる環境を整える。 早期解消に向け被害者を保護し、速やかに実態把握及び加害者の対応にあたる。 保護者や警察、相談所等と連携し情報交換をする。 教職員の共通理解と指導力向上を図るための研修を充実させる。	B A A A B		
特別活動部	部活動の活性化	部活動の加入率向上を目指し、運動部だけでなく文化部活動も活性化を図る。 活動の成果を高めるためのリーダーの育成を図る。 各活動場所や部室周辺等の環境整備の充実に努める。	A A	A	・運動部、文化部共に全国大会での上位入賞を果たすことができた。今後も継続していけるよう支援していく。 ・各行事の内容の検討を行い、更に魅力ある学校行事となるよう努める。 ・成達会役員に学校のリーダーとしての自覚を促し、主体的かつ積極的な成達会活動ができるよう支援する。
	学校行事の充実	水農祭の内容など計画立案の再検討と会場の環境整備を図る。 各種学校行事への積極的な参加を通して、生徒に達成感を体験させるとともに、クラスの連帯意識を高める。	A A		
	成達会活動の充実	ホームルーム活動、学校行事との連携を深めた各種委員会活動の充実を図る。	B		
進路指導部	系統的な進路指導の充実 （多様な進路実現への対応）	3年間を見通し、ホームルームでの進路指導の充実を図る。 学年別の進路講話、進路ガイダンス、面接指導を系統的・計画的に行う。 各種進路情報の収集と積極的活用、情報の共有を図る。 係分担を明確にし、各学年との連携を強化する。進路指導を組織的に行う。	B B B B	B	・進路資料室の活用を図る。 ・就職希望者への早期指導を行う。 ・進学希望者への学力向上のための学習課外を充実させる。 ・国公立大学の専門高校 入試対策を充実させる。 ・ハローワークと連携し、進路未決定者への指導を充実させる。
	進学指導の充実	推薦・AO入試・小論文対策・作文やレポートの作成指導・面接指導を充実させる。 進学対策のための課外を実施する。	B B		
	就職指導の充実	就職対応の模擬面接指導、履歴書や礼状の書き方などの添削指導を早期に充実させる。 積極的な企業開拓と継続的な訪問を実施し、就職情報の提供・共有を図る。	B B		
	勤労観・職業観の育成	インターンシップへの積極的な参加、体験型ガイダンスや進路講話を充実させる。	B		
保健厚生部	生徒の健康安全に対する管理運営	健康診断の実施とともに、保健日誌を活用して生徒の健康状態を把握する。 感染症対策及びアレルギーを持つ生徒への迅速な対応に万全を期す。	A	B	・職員間での感染症やアレルギー疾患生徒への共通理解を図る。 ・清掃活動の定着を図る。 ・地域と連携した防災避難訓練の実施及び日頃からの防災意識を高める。
	校舎内外の学習環境の安全と美化	清掃区分の明確化及び担当教員による指導・監督の徹底に努める。	B		
	防火防災対策の徹底	暖房器具の安全な利用を指導する。 綿密な計画の下、避難訓練、降下訓練及び消火訓練を実施する。	B A		
図 書 部	本校の教育目標に応じた学校図書館作りの研究	農業教育の専門学校として関係書類の整備に努める。 本校の文化センターとしての役割を果たすために、図書・視聴覚資料の整備に努める。 職員研修の成果として、紀要を発行する。	A B A	A	・書籍の整理、管理を細かく実施し活用しやすい図書館作りに努力する。 ・図書委員の活動の活性化を図り生徒自身の意識の向上を図る。 ・図書館への興味、関心が高まるよう工夫する。
	学校図書館を利用した教育の充実	教科指導とのつながりをもった教育資料の充実に努め、授業・自主学習の支援をする。 校内読書感想文コンクール、図書委員研修会等の開催や広報誌の発行により、各種情報の収集と発信に努める。 図書委員会活動を活発にし、生徒の読書活動の活性化を図り、図書館利用者を増やす。	A A B		
	視聴覚機器の充実と利用	授業で利用できるソフトと機器の充実を図り、広く授業・教育活動の場として提供する。	A		
	学校図書館の施設・設備の充実	視聴覚室の空調設備を整備する。書庫の書籍の管理環境を改善する。	A		
	司書作業の研修と蔵書の整理	利用しなくなった書籍・VHSビデオの除籍作業をする。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題			
渉 外 部	P T A総会等の成功	P T A総会等について確実に保護者に連絡するために、案内文書を各家庭に郵送し、参加率を向上させる。 P T A行事と運営委員会を同日に設定し、効率よい開催を目指す。	A	A	・ P T A総会の参加率の向上を工夫する。 ・ 視察研修、講演会、公開講座の開催案内を各家庭に郵送して、参加者数を増やす。 ・ 広報誌を各家庭に郵送して、 P T A活動を広報する。			
	P T A支部活動の持続	支部の会員と学校の支部担当者との連携を深めて、支部の活動への会員の参加者数を増やす。運営委員会を活用して支部の活動の活性化を図る。	B					
	校外生徒指導の実施	校門・後台駅での立哨指導を多くの会員で実施していく。	A					
	主催行事の充実	水農祭・公開講座・視察研修などの工夫を凝らして充実させ成功に導く。	A					
	広報活動の充実	広報誌・HPでの行事の案内や報告など、わかりやすく P T A活動を広報していく。	A					
	資格取得の合格率の向上	各学科の専門性を生かした資格取得を計画し、合格率向上への指導を充実させる。	B			B	・ 農業後継者・農業関連産業従事者育成のため、校外体験学習の更なる充実を図る。 ・ プロジェクト活動を通じた発表等、言語表現活動の充実を図る。 ・ 学科間連携活動の充実を図る。	
農業クラブ活動の活性化	プロジェクト活動を推進し、生徒の自主的・主体的学習の深化を図る。 農業クラブの各種発表や技術競技に意欲的に取り組ませる。	B						
農 場 部	「エコロジカル・アグリハイスクール宣言に基づいた行動」	各学科の専門に関する知識・技術の学習を通して、基礎・基本の確実な定着を図る。 農業担い手育成事業を充実させるとともに、校外実習体験活動を推進する。	B					
	①基本的な農業技術能力を持つ人材の育成	校内環境の美化に努めるとともに、安全で質の高い農産物の栽培に取り組む。 農業機械・実験・実習器具の安全な操作や適切な農薬の使用など、学習における安全の徹底を図る。	A					
	②食の安全・安心教育の推進	地域連携活動の一環として草花の苗等の配布活動を継続する。	A					
	③環境教育の推進	幼稚園児や小学校児童に対し、農業体験活動の指導・援助の学習を展開する。						
	④開かれた学校を目指すとともに農業教育の普及活動の展開	地域連携を取り入れた学習（研究）活動を推進する。 農業分野の専門性を幅広く身に付けるよう職員研修を充実させる。	B					
	⑤奉仕体験活動の積極的導入	学科間連携の下、「農産物直売所」の運営に取り組む。	A					
	事 務 部	予算の計画的な執行	電子調達となり、手続きが煩雑かつ複雑化しただけでなく、見積期間を置かなければならないなどの制約が生じているので、集約した発注を目指し、周知を図り計画的な執行を行う。	B	B			・ 老朽施設の改修や農機具等の更新を計画的に進めていく。 ・ 就学支援金制度も3年目となり事務量の増加が予想される。円滑な事務処理に努めるとともに、滞納者の縮減を目指す。 ・ 茨城国体に伴う馬術競技場の整備は、実施設計の年度であり、学校教育に支障を来さないよう協議していく。
		施設の長寿命化	老朽施設の修繕修理を予算の範囲内で行い、施設の有効利用の長期化(長寿命化)を図る。	B				
事務処理の効率化		総務事務システム、電子調達等の制度化により事務の煩雑化・複雑化が著しく、業務が長時間化しているので、集約した発注など事務処理の効率化を図り残業時間の縮小に努める。	C					
学校徴収金等の滞納の解消		保護者の納入意識の高揚を図るとともに、学年・担任との連携の下、学校徴収金等の滞納者の減少を図る。	B					
国 際 教 育 委 員 会	ニュージーランド研修の充実	平成28年度末の実施を周知させる。相手国の理解を高める共に日本文化の理解を深める。	B	B	・ タイとニュージーランド双方へ行く年度なので、一層の生徒への呼びかけや周知徹底が必要となる。事前指導も例年同様に行う。			
	タイとへのホームステイの実施	今年度のタイホームステイの参加生徒募集と事前研修の実施。異文化の理解を深める。	A					
ネットワーク委員会	教育情報ネットワークの環境の整備	県教育情報ネットワークの更新及び校内ネットワークのシステム整備並びにネットワーク使用基準の作成。	B	B	・ 見やすいホームページの作成に努める。 ・ ネットワークの使用基準の遵守及びハードウェア台帳の作成を行う。 ・ 校内ネットワークの充実を図る。			
	ホームページの更新	ホームページの定期的な更新・内容の充実。	B					
寮務委員会	基本的生活習慣の確立	規律ある共同生活を通して、挨拶を励行し、時間を守る態度を育て、自主・自立の精神を身に付けさせる。	A	B	・ 寮の行事の充実を図る。（営農講話の実施・就農への興味を高める教材の活用） ・ 寮運営の全体の流を確率する。 ・ 農業科・園芸科・畜産科の女子の増加への対応を検討する。			
	寮運営の改善及び活性化	寮運営の在り方を検討し、次年度に向け準備をする。また、寮の有効活用を検討し、できることから実践する。	B					
	家庭・地域との連携	寮の生活・規則について、保護者に対して周知を図り、連携を図る。	B					
1 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、朝の読書タイムの実施や清掃活動の徹底など、日頃の小さな取組を積み重ねていく。また、本年度、120周年式典を迎えることを自覚させ、規範意識を持った行動ができるよう学年集会やL H R等と授業を有機的に結び付けて指導していく。	B	B	・ 朝の読書タイムの実施により、落ち着いた雰囲気です授業に入ることができた一方、遅刻により読書をしない生徒もあり、次年度は遅刻を少なくさせ、全員で読書タイムに取り組ませたい。 ・ 本年度は進路ガイダンスを契機とし、進路を真剣に考え、資格取得に積極的に取り組む生徒が見られた。次年度も資格の重要性を伝え、より積極的に資格取得に取り組ませたい。			
	進路指導の充実	昨今の厳しい進路状況に対し、1年次より勤労観・職業観を育成するため、進路指導部等と連携し、課外授業やガイダンス等を実施する。また近年基礎学力が重要視されているため、資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	B					
	活力ある生徒の育成	運動部・文化部等への加入やボランティア活動、また農業クラブ活動への積極的な参加を促すことで、活力ある生徒の育成を目指す。	A					

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
2 学 年	基本的生活習慣の確立	規律ある生活習慣を身に付けさせるために、朝の学習タイムを実施、清掃活動の徹底など、日頃の小さな取り組みを積み重ねていく。 今年度120周年を迎えることを自覚させ、規範意識をもった行動ができるよう学年集会やLHR等で指導していく。	B	B	・基本的生活習慣の定着を図る。 ・進路実現に向け基礎学力の向上を図る。 ・進路実現のための早期指導を行う。
	基礎学力の向上	マナトレを用いて基礎学力の向上に努め、日々の学習意欲を高める。 資格取得等への積極的な取組を通して、学習習慣を身に付けさせる。	B		
	進路意識の高揚	進路ガイダンスや体験学習を通して自らの進路を明確にさせる。 課外学習や資格取得に積極的に参加させ、進路選択の幅を広げる。	B		
卒 学 年	進路希望の実現	各自の進路希望の実現のために、目標を明確にさせて、個々の進路に応じた進路指導を行う。1年次から積み重ねた指導を継続していく。 面接が重要なので、繰り返し指導を行い、就職・進学に備えさせる。	A	A	・就職指導はよくできたが、進学指導が後手に回った。早めに対応したい。 ・面接指導は、就職・進学の生徒全員に行いたい。学科の協力もいただきたい。 ・進路に向けて、服装指導は普段の集会や式典から徹底すると良い。 ・進路決定後の気のゆるみが顕著だったので、決定後の心構え等の事後指導が必要。 ・次の周年行事に向けた指導の充実。
	基本的生活習慣の確立	朝の読書（ドリル）や毎日の清掃といった活動を継続し、良い生活習慣を確立させる。 家庭との連携を密にして、欠席・遅刻・早退を防止し、進路実現にもつなげる。 進路を意識させ、授業・部活動・資格試験など様々な場面で、適切な態度や正しい言葉遣い・不断の努力などができるようにする。	B		
	卒学年として臨む1年間	卒業学年であることを自覚させ、目標を持って、下級生の模範となる生活を送らせる。 いよいよ120周年を迎えるので、在校生の中心となって実行をサポートする。	A		
農 業 科	農業教育の充実	魅力ある農業教育を工夫し、農業や自然環境を大切にする態度を育成する。 農作物の育成を通して、思いやりや環境への関心を高める。 専門教育学習（プロジェクト学習等）を推進する。	A	B	・資格取得の合格率を上げるための指導方法や体制の充実を図る。 ・進路の自己実現に向けて、個々の能力に応じた指導に努める。 ・基本的生活習慣と学習態度を身に付けさせるために、朝のSHRやLHRの時間を充実させて、指導徹底する。 ・授業時間を確保する。 ・教員が教室にいる時間を出来るだけ長くすることによって、より密接なコミュニケーションを図る。 ・教室（本館4階定時制区域及び東トイレ・東階段の清掃に努め、よりよい学習環境と生活環境を維持する。
	学習環境の安全と美化	農場実習棟や更衣室等の清掃区分を明確にし、指導・監督の徹底に努める。 実験実習室内外の美化及びごみの分別の徹底と軽量化に取り組む。	B		
	確かな学力の定着	教材を精選し、基礎学力を身に付けさせる授業展開を行う。 基本的な学習態度の育成を図り、成就感を味わえるような授業展開をする。 個の能力に応じた指導により、基礎学力の向上に努める。	B		
	生徒理解の充実	生徒・保護者との面談機会を確保する。 保護者や出身中学校と密接に連絡を取り生徒理解に努める。	A		
	進路指導の充実	ホームルームや道德の時間を中心に、自己の将来を見つめさせ、その展望を考えさせる。 アルバイト等の社会体験を通して、早期から進路意識を啓蒙する。 進路意識を啓蒙する取組を、学年毎に企画・立案し、進路指導の充実を図る。 ハローワークとの連携を密にし、進路実現に努める。	A		
	自信を持てる体験学習等の充実	生徒が自信を持てる何かを見付ける取組をする。 インターンシップ等、生徒が自分に自信を持つことができる体験活動を充実させる。	B		
	基本的生活習慣の定着	常に元気なあいさつが交わせる明るい生活環境を創る。 人の話を聴ける態度を身に付けさせる。 一人一人に応じた適切な教育や支援を実践する。	A		
			A		
国 語 科	基礎学力の向上	生徒の実態を踏まえ授業の展開を工夫し、基礎・基本の定着を図る。 授業参観を実施し、学習指導の手だてや工夫を協議し指導力の向上に努める。 漢字力をつけるため授業や定期考査に継続的に取り入れる。また、漢字学習への意識向上や定着のため漢検を活用する。	A	A	・生徒一人一人の能力、進路に合わせた国語力の向上を支援する。 ・漢字、基礎的な読解力をつける授業展開の工夫や手立て、指導力の向上を図る。
	表現力の向上（進路対策）	目的や場に応じて自分の考えを文章にまとめる力を育成する。書籍や新聞等を活用し、自ら考える力を養い、自己表現力を高め生徒の進路に応じた個別指導を充実させる。	A		
地歴・公民科	日本国及び世界の国々が形成される歴史的過程と地域的特色の違い及び現代の社会についての理解と知識の深化を図る。	教科書のみならず、新聞や視聴覚教材など多種多様な教材を用いながら、授業内容を分かりやすく伝える工夫をする。また適宜問いかけを入れながら、理解度を確認していく。 基本的な内容を精選し、それぞれの科目の特徴を生かした指導内容を構成する。	A	A	・社会情勢の変化を踏まえて、今後も多様な教材を用意して、生徒が興味を持って取り組める授業を目指す。 ・基本的な授業の環境整備は継続する。卒業後、自分なりの考えを持ち、適確な判断と行動がとれるよう指導する。
	現代の国際社会に主体的に生きる民主的・平和的な国家・社会の一市民として必要な自覚と資質を涵養する。	授業に臨む姿勢を整えさせる。時事問題などを教材として積極的に取り入れ、社会的な関心を喚起する。更に生徒が理解を深め、意見発表できるようにする。 ノート提出・小テストの実施等を定期的に実践し、生徒が現代社会に必要な基礎的な知識・教養を身に付けられるよう指導する。	A		
			A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評 価		次年度（学期）への主な課題
数 学 科	基礎学力の向上	基礎・基本の定着を図るため、教科内で積極的に情報交換し生徒の実態に沿った授業を展開する。 基礎学力が定着していない生徒へ個別指導を実施し、基礎の定着を図る。 進学希望の生徒に対して、希望する進路に沿って個別に課外を実施し対応する。	A	A	- 生徒の実態に沿った授業を展開し、基礎学力向上に努める。課外や個別指導を充実させる。進学課外にも取り組む。 - 数学検定への参加を積極的に呼びかけ、学習意欲の向上に努める。
	数学検定資格取得の奨励	学期に1回を目安に実施し、資格取得を積極的に促し、課外や個別指導を実施する。	B		
理 科	教員の指導力の向上	積極的な授業公開や、授業内容や指導法について情報交換を行い、自己研鑽に努める。	A	A	- 教員同士の情報交換の場を積極的に設け、本校生に合った教材の作成を基に、基礎学力の向上を更に目指す。 - 個別の進路に応じた指導の継続を図る。
	基礎学力の向上	各科の学習内容と関連した授業内容を精選し、本校生にあった教材を作成する。	B		
	興味・関心の向上	科学のトピックスの紹介などを通して、農業と生物・化学の関連性を理解させる。	A		
保健体育科	協調性や協力性の育成	進学者を対象にした生物・化学分野の課外の実施と個別指導を充実させる。	A	A	- 生涯にわたり運動ができるように基礎基本を身に付けさせる。 - 運動の特性に応じた課題解決の工夫ができるようにすると共に、生徒が興味を示す授業展開を目指す。
		生涯にわたり継続して運動に親しむ力の育成を図る。 集団としてのきまりを守り、活動できる体育学習を展開する。 目標の解決を目指して仲間と協力し、運動に取り組ませる。	A B B		
芸 術	基礎学力の向上	提出物を確認し、生徒の技量を確認する。 名品・名跡を鑑賞し、自己の向上を図らせる。	A A	A	
英 語 科	基礎学力の向上	単語練習や英文理解の反復練習や辞書や副教材等を活用し、基礎から学習できる環境を与え、きめ細かな指導を行う。 教科書やノートの準備等、授業に臨む態度を確立させる。	B A	A	- 学習意欲を向上させる。基本、基礎的な理解を確認し、より発展的な学習を進められるように指導する。 - S T E P英検については、各級の合格者増を目指す。 - A L Tの来校時には積極的なチームティーチングを実施し、「話す」活動を増やし、よりコミュニケーションな技能を育成する。
	モチベーションの向上	A L Tを活用し、より実践的な生きた英語を学ぶ機会を与える。 簡単な内容を理解させ自信を付けさせ、学習のモチベーションを高めさせる。	A B		
	資格取得の奨励	授業中、積極的に資格取得を呼びかけ、英検対策の課外・面接を積極的に行う。 S T E P英検等、より上位の資格取得を奨励する。	B A		
家 庭 科	家庭生活の課題を主体的に解決する能力の涵養	実験・実習等を通して基本・基礎的知識や技術の習得を図るとともに、心の触れ合いを持ち、豊かな人間性と生きる力を育む。	B	A	- 個別指導では、心の触れ合いを持ちながら、粘り強く学習に取り組む態度を養う。 - 用具・器具の後片付けを徹底させる。 - 自立した家庭生活を送れるようにするための基礎的知識・技術の定着を図る。
	家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度の育成	体験学習・視聴覚教材の利用・新聞記事の活用などにより生徒の興味・関心を高め、家庭生活をより身近な問題として捉えさせる。	A		